

Čepický & Kaňka with Ijuin Noriko *Violin* *Cello* *Piano*

レオシュ・チェピツキー <ヴァイオリン>

ミハル・カニユカ <チェロ>

伊集院紀子 <ピアノ>

2026年10月30日 金

杉並公会堂 小ホール

開演 19:00 開場 18:30

終演予定 21:00

主催: 国際芸術連盟

後援: 駐日チェコ共和国大使館

チェコセンター
東京

日本チェコ協会

一般社団法人
全日本ピアノ指導者協会 (ピティナ)

Program

<ピアノ独奏 / Piano Solo>

マクダウェル: 炉端のお話 Op.61
Edward MacDowell: Fireside Tales Op.61

ボウエン: ピアノ・ソナタ 第6番 Op.160
York Bowen: Piano Sonata No.6 Op.160

<ピアノ&チェロ / Piano and Cello>

ショスタコーヴィチ: チェロ・ソナタ Op.40
Dmitri Shostakovich: Cello Sonata, Op.40

ドヴォルザーク: 『ボヘミアの森より』Op.68-5
Antonín Dvořák: From the Bohemian Forest, Op.68 No.5

<ヴァイオリン&チェロ / Violin and Cello>

シュルホフ: ヴァイオリンとチェロのためのデュオ
Erwin Schulhoff: Duo for Violin and Cello

<トリオ / Trio>

ババジヤニアン: ピアノ三重奏曲
Arno Babadjanian: Piano Trio

※表記は出演順ではございません。
曲目は変更となる場合がございます。
予めご了承ください。

《チケット》

5000 円
【税込・全自由席】

JILAチケットセンター
TEL 03 (3356) 4140
<https://jila.co.jp/> チケット注文フォーム



チケットぴあ
Pコード322472
<http://ticket.pia.jp/pia/>
/event.ds?eventCd=2609353



カンフェティ
<http://confetti-web.com/>
/#/CK_12026



Profile

伊集院紀子 Ijuin Noriko <Piano>

2005年アレンツァーノ国際音楽コンクール、2008年G.デ・ヴィンチェンツィ国際ピアノコンクールで第1位を受賞。以降、国内外の多数のコンクールで入賞・優勝し、トリノでのリサイタルや音楽祭、受賞者演奏会に出演し高い評価を得る。2010年日本イタリア協会主催コンコルソMusicArteでグランプレミオ（優勝）および聴衆賞受賞。2011年にはヴィンチェンツァの世界遺産テアトロ・オリンピコ国際フェスティバル、ヴェネツィア国立音楽院特別演奏会に出演。FMヨコハマ「ピアノワイナリー響きのクラシック」では2014年より演奏紹介コーナーを担当。2022年にはウクライナ作品集CDでコセンコを録音し、レコード芸術特選盤に選出。邦人作品の初演も多い。指導にも力を注ぎ、生徒は多数のコンクールで受賞。指導者賞も複数受賞し、審査員やステーション代表として地域の音楽活動にも貢献。日比谷友妃子、故・安川加寿子、故・高良良枝、G.M.マッサーリアに師事。

<https://www.norikojuin-pianist.com/>

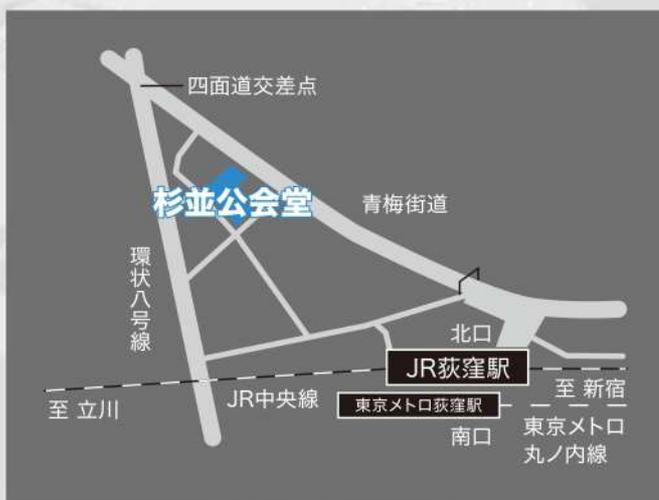
Leoš Čepický レオシュ・チェピツキー <Violin>

1985年にパルドゥビツェ音楽院を卒業後、プラハ舞台芸術アカデミーへ進み、チェコを代表する名教師イジー・ノヴァークとアントニン・コウトの薫陶を受け、音楽家としての基盤を確固たるものにした。学生時代からすでにウィハン弦楽四重奏団の第1ヴァイオリン奏者として活動を開始し、プラハの春国際音楽コンクールおよびロンドン国際弦楽四重奏コンクールでいずれも第1位を獲得するという快挙を成し遂げ、若くして国際的な注目を集めた。ソリストとしても活躍の幅は広く、国内外の主要オーケストラと共演を重ねるほか、バッハ《無伴奏ソナタとパルティータ》全曲やベートーヴェンのヴァイオリンソナタ全曲といった大規模な作品群にも積極的に取り組み、その深い音楽性と確かな技術で高い評価を得ている。録音活動も精力的で、Nimbus Allianceやマルチソニックから多数のアルバムをリリースし、室内楽奏者としてもソリストとしても豊かなディスコグラフィーを築いてきた。ウィハン弦楽四重奏団としては、ベートーヴェン弦楽四重奏曲全曲演奏会の成功や世界各地でのツアーを通じて国際的な地位を確立し、チェコを代表するアンサンブルとして広く知られている。2007年からはプラハ舞台芸術アカデミーで教鞭をとり、2010年には弦楽科部門長に就任。現在も演奏活動と教育活動の双方に情熱を注ぎ、後進の育成と音楽文化の発展に大きく貢献している。

Michal Kaňka ミハル・カニユカ <Violin cello>

1960年プラハ生まれ。ミルコ・シュカンパの指導のもと7歳でチェロを始め、早くからその才能を示した。プラハ音楽院ではヴラフ弦楽四重奏団のチェリストとして知られるヴィクトル・モウチュカ教授に、さらにプラハ芸術アカデミーではスーク・トリオのチェリスト、ヨセフ・フッフコ教授に学び、チェコ伝統の奏法と深い音楽性を身につけた。1983・84年にはロサンゼルス・グレゴール・ピアティゴルスキー・セミナーに参加し、アンドレ・ナヴァラ、モーリス・ジャンドロン、ポール・トルトゥリエといった巨匠の薫陶を受けている。コンクール歴も華々しく、1980年プラハの春国際音楽コンクール名誉賞、1981年チェコスロヴァキア国内コンクールのグランプリ、1982年チャイコフスキー国際コンクール上位入賞、1983年プラハの春国際音楽コンクール第1位、1986年ミュンヘン国際音楽コンクール第2位（最高位）など、国際的評価を確固たるものにした。ソリストとしてはチェコ・フィル、バイエルン放送響、ベルリン・ドイツ響、ロイヤル・リヴァプール・フィルなど欧州主要オーケストラと共演し、ヨーロッパ各国をはじめアメリカ、日本など世界各地でリサイタルを開催。録音も豊富で、スラフォンやポントンに加え、1990年代以降はプラーガ・デジタルズと長期契約を結び、ボッケリーニ、ミスリヴェチェク、コダーイ、マルティヌーなどの録音でショック賞や金のディアパソン賞を多数受賞している。室内楽でも活躍は顕著で、1976年にマルティヌー弦楽四重奏団を結成。1986～2022年はブラジャーク弦楽四重奏団のメンバーとして世界的名声を築き、現在はウィハン弦楽四重奏団およびターリヒ弦楽四重奏団のチェリストを務める。現在はプラハの春国際音楽コンクール会長など要職も務め、チェコを代表する音楽家として高い評価を得ている。

<https://cepicky-kanka.webnode.cz/>



《会場アクセス》

〒167-0043

東京都杉並区上荻1-23-15 TEL:03(5347)4450

JR中央線・東京メトロ丸ノ内線

荻窪駅北口から徒歩7分

《主催・問い合わせ》

 国際芸術連盟 with you together

〒160-0022 新宿区新宿2-15-2 岩本和哉ビル 2階

Tel.03(3356)4033/Fax.03(3356)5780

Eメール: music@jila.co.jp/X: @jila_music